その（格助）夜、上の（格助）いと（副詞）なつかしう（形容詞・用・ウ音便）昔物語など（副助）**し**（サ変・用）

給ひ（補四段・未）（ⓢ作者→帝）し（過去「き」体）御さまの（格助）、院に（格助）**似**（上一・用）奉り（補四段・用）（ⓚ作者→桐壺院）給へ（補四段・已）（ⓢ作者→帝）り←（存続「り」用）

し（過去「き」体）も（係助）、恋しく（形容詞・用）**思ひ出で**（下二・用）聞こえ（補下二・用）（ⓚ作者→帝）給ひ（補四段・用）（ⓢ作者→源氏）て（接助）、

「恩賜（おんし）の（格助）御衣（ぎょい）は（係助）今ここに（格助）**あり**（ラ変・終）。」

と（格助）**誦じ**（ず）（サ変・用）つつ（接助）**入り**（四段・用）給ひ（補四段・用）（ⓢ作者→源氏）ぬ（完了「ぬ」終）。←御衣（おんぞ）は（係助）まことに（副詞）**身放た**（四段・未）

ず（打消「ず」用）、傍らに（格助）**置き**（四段・用）給へ（補四段・已）（ⓢ作者→源氏）り（存続「り」終）。

憂し（形容詞・終）と（格助）のみ（副助）ひとへに（副詞）ものは（係助）**思ほえ**（下二・未）で（接助）

左右にも（係助）**濡るる**（下二・体）袖かな（終助）

その夜、帝（朱雀帝・源氏の腹違いの兄）が、たいへん親しみ深く昔の思い出話などをしなさっていたご様子が、院（桐壺院・源氏の父）に似申し上げなさっていたのも、恋しく思い出し申し上げなさって、

---

「恩賜の御衣はいまここにあり。」（菅原道真の詩句）（あのときいただいた御衣は、今もここにあります）と口ずさみつつ（寝所に）お入りになった。帝からいただいた御衣は本当に身から離さず、そばに置いていらっしゃる。

---

ひたすら恨めしいとばかりは思われません。（恨めしさと懐かしさで）左の袖も右の袖も涙で濡れてしまうことだよ。